

「見よ、わたしはすべてのものを新たに作る」

ヨハネの黙示録 第21章5節

説教 岡村 恒 牧師

「見よ、わたしはすべてのものを新たに作る」。(5節)とあのお方が言われました。今年一年、私たちはこの御言葉がどのように実現していくのか、一緒に味わいながら過ごします。

新年を迎えると、私たちはいろいろ新しいものに目を向けます。お正月に新しい下着を身につけて、新年の到来を互いに祝い合います。今日までの1週間に何度、「明けましておめでとう」と口にしたいでしょうか。古いものが過ぎ去り、新しい年が、新しい時が始まったことは嬉しいことです。新たな希望を抱き、新たな決意をして歩み出すことができます。

しかし、ほんの数日、1週間たっただけで、この新しさは簡単に古びてしまいます。世界には去年と変わらずに争いと憎しみが満ちあふれ、事件や事故が続いて起こっています。せっかく新しい時が始まったと思ったのに、実は、何一つ変わっていないということに気づかされてしまうのです。

ところが、聖書はこの世界、目で見、手で触れることのできる世界が、やがて全て過ぎ去り、「新しい天と新しい地」が来ると宣言します。私たちが本当の新しさを目にする時が来る、と言うのです。

先日、この聖堂で洗礼式が行われました。2人の姉妹が罪の赦しの洗礼を受けて、新しい人として生まれ変えられて生き始めました。この2人はあの日、この聖堂に入って来た時とは違う人、新しい命を持つ者になってこの聖堂を後にしました。いや、あの2人だけではなく、礼拝に集まった者はいつでも、一人残らず新しくされてここから送り出されて行くのです。そして地上の旅を歩み続けて行きます。洗礼を授けられたキリスト者、すなわちキリストのものとして生きて生きる者は誰でも、本当の新しさの中に生きているのです。

先週、大阪教会最高齢教会員の市川テル姉妹の葬儀を執り行いました。102年余りの生涯の内70年以上、この聖堂で礼拝を捧げ続けた姉妹でした。若い日に、牧師の妻としてこの群れに加えられ、43年間、夫の市川恭二先生と共に教会に仕え、恭二先生隠退後は、一人の礼拝者として聖堂に身を置き、2008年5月に恭二先生が召された後も、教会の母のように、一人一人の信仰者に心を配り、特に、新しい人が礼拝に来ると声をかけ、礼拝後に牧師に紹介して下さ

いました。10月23日、聖日礼拝に来ようとしている時に脳梗塞のために病院に運ばれ、半身に麻痺が残る中、最後まで意識は明瞭で、病室あるいは自室を訪れる人のことをしっかり認識し、呼びかける声に応えるだけでなく、主イエス・キリストの救いを証しし続けられました。

「神は愛なり」という言葉を5歳の日に暗唱してから、この聖書の御言葉が真実であることを確かめ、味わいながらその生涯を送った姉妹でした。その病床で、点滴の針が痛いと言えながら、「イエス様は十字架に釘で打ち付けられて、どんな痛かったことか」と主イエスの十字架を思い、寒さを訴える中で「ゴルゴタの丘で十字架に何時間も裸ではりつけにされて、イエス様はどんなに寒かったことだろう」と主のお苦しみに思いを馳せておられました。

古いものが過ぎ去って、全てが新しくなるということ、私たちはまだ本当には知りません。新年を迎えても、新しい決断をして歩み始めても、本当には何かを新しくすることが、私たちにはできないからです。ただ、全てをお創りになった神様にだけ、本当の新しさがあります。

主イエス・キリスト、神のひとり子が地上にお生まれになった時、実は、世界は新しくなりました。神なき暗闇に包まれていたようなこの世界に、神の光が照り輝いたからです。神ご自身が私たちと共にいて下さる新しい時間が始まりました。やがて主イエスが十字架の上で死んで墓に葬られた後、主は死を滅ぼして墓から引き上げられました。死でさえも、私たちを神から引き離すことができなくなった新しい時が始まりました。生まれて、生きて、死んで、裁かれて滅びるはずの私たちが、神の子と呼ばれて永遠の命を得る、新しい時間が始まりました。

主イエスの誕生と死、復活と昇天は、主が再び来て下さる再臨の時を指さしています。「新しい天と新しい地」とが降ってくるというのは、主イエスの再臨の時のことです。既に眠りについたあの兄弟、あの姉妹が呼び出され、主イエスと同じ栄光の姿に変えられて神の国の食卓にまで引き上げられる時が来ます。その日完成する新しい世界が、もう既に私たちの中に到来して、完成をめざして進んでいます。神は、すべてのものを新にして、生かして下さるお方です。

(記 岡村 恒)